

International Workshop in Lengerich 2022



International
WRK
SHP
LA22
LENGERICH

東京農業大学 大学院
地域環境科学研究科
造園学専攻



About Workshop

ドイツ・オスナブリュック応用科学大学主催で開催された、ランドスケープデザインの国際ワークショップに参加した。人口減少など様々な社会課題をもつ地域において、都市と自然の特色を生かした地域の再デザインを市に提案する課題に取り組んだ。

参加学生は約 60 名で、ドイツ・日本・アルゼンチン・スペイン・フランス・アメリカの大学から集まった。各大学混合で 8 グループに分かれて作業を行った。

ドイツ：University of Applied Sciences Osnabrueck
日本：Tokyo University of Agriculture
アルゼンチン：Universidad de Buenos Aires
スペイン：Universidad Politecnica de Madrid
アメリカ：New York City College of Technology
フランス：Université de Toulouse





Lengerich | レンゲリッヒ

90.77 km²の中規模都市で、人口密度は255人/km²。
南東から北西にかけて、トイトブルク森の稜線が横断している。この森は、海拔220mに達し、それ以外は、標高25～100mの平地が広がっている。

ミュンスターとオスナブリュックを結ぶ街道沿いという交通の利便性が高い立地条件から、レンゲリッヒは早くから長距離貿易の中継地として利用されてきた。

19世紀後半には、トイトブルク森林鉄道と長距離鉄道が建設され、新しい超地域的な交通網が形成された。これによってリネンやタバコなどの衰退産業から、大規模な石灰やセメントなどの新産業への移行を可能にした地域である。



01 Field Work 1

公園・まち・自然を体験するフィールドワーク



02 Field Survey

現地調査：
レンゲリッヒの自然ポテンシャル、課題、特徴を把握する



03 Field Work 2

地域産業に関するフィールドワーク：
レンゲリッヒの特産品である「石」を生業とするセメント工場を視察



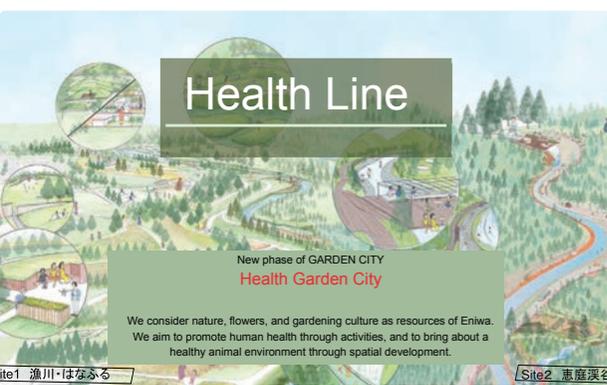
04 Work

調査から計画条件の整理、計画の提案：
調査から情報を整理し、提案概要を思考する



05 Research Presentation

参加大学の紹介、大学院の研究発表



農大の紹介、各自の研究、プロジェクト、これまでの成果を英語で発表する貴重な時間となった。



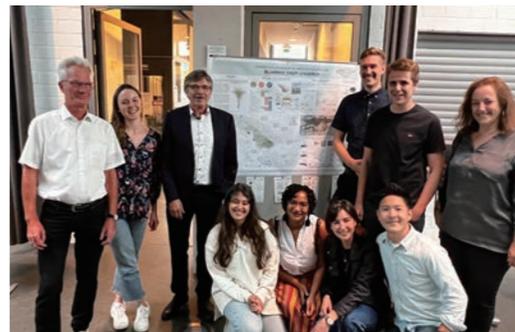
Using native plants leaf as Wrapping and Laying food.

Graduate school of Tokyo NODAL.
Kimura Hinako



06 Final Presentation

Gempt-Halle にて市長、市議会議員、市民の前で最終プレゼンテーションを実施





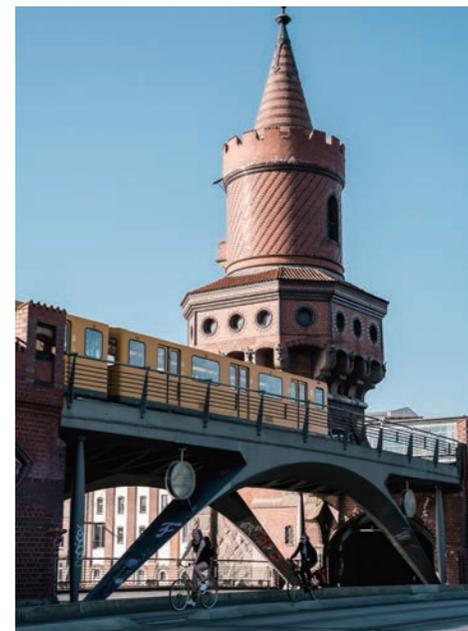
Berlin | ベルリン

ドイツ最大の都市で、人口はおよそ 370 万人。

市域の 3 分の 1 は森林、公園、庭園、河川や湖で構成されている。

第二次世界大戦後、東西ドイツの国境が封鎖された後もベルリンの間だけは往来が自由であったため西側へ脱出する人が続出した。労働人口の流出を恐れた東ドイツ政府は 1961 年に東西ベルリンの境界線を封鎖（後のベルリンの壁）。

1989 年、ベルリンの壁は崩壊する。ベルリンの壁が撤去され市内中心部には広大な空き地が出現した。その一つであるポツダム広場は再開発され、巨大なビジネス・商業エリアになっている。分断されていた道路網や地下鉄も含む鉄道網などの交通網を東西で直結する工事が行われた。



07 Field trip 1

Location :



歴史的・生態的なランドスケープ
都市の歴史や生態系が日常空間に取り入れられていた



@Lustgarten



@Skulptur Galileo



@Neues Museum



@Memorial to the Murdered Jews of Europe



@Schlüterhof



@Potsdamer Platz



08 Field trip2

Location :



跡地利用・産業空間のランドスケープ
跡地としての痕跡を残しつつ、現代に順応していた



@Naturpark Südgelände



@Naturpark Südgelände



@Übungsfläche Tempelhofer Feld



@Naturpark Südgelände



@Naturpark Südgelände



09 Field trip3

Location :



自然の力を活かしたランドスケープ探索
植物を活用した市場空間の再生・再デザインにより、市民に受容されていた



@Jüdischen Museums Berlin



@Besselpark



@East Side Gallery



@Tilla-Durieux-Park



@Brandenburg Gate



@Berlin Wall Memorial



@Jüdischen Museums Berlin



@Jüdischen Museums Berlin



@Jüdischen Museums Berlin



@Gärten der Welt

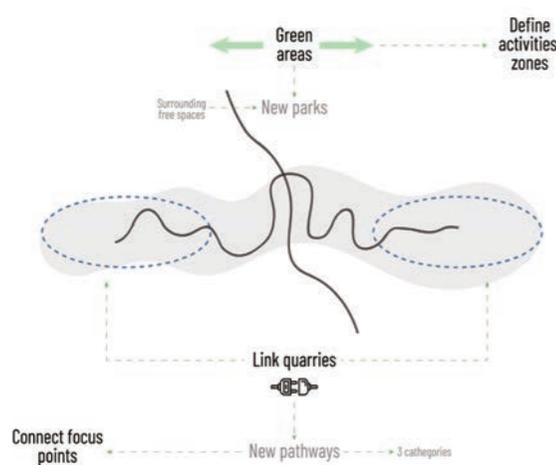


@Bernauer Straße Memorial



WATER CONNECTION

CONNECT



Define activities zones

Lengerich は、鉱業、農業、畜産、そして生来の自然を重要視してきた。この地域には、セメントとしてヨーロッパ全土に供給している採石場がある。使われなくなった採石場（キャニオン）は、水で満たされ、その植物相と動物相の重要性のために保護されており、非常に魅力的なコンテンツである。

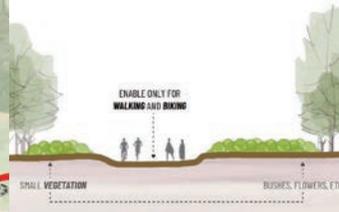
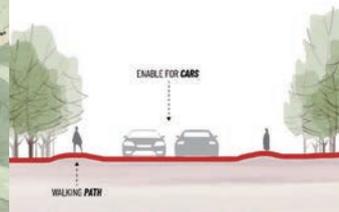
都市からこの自然豊かな場所までどうつなげるか。最も重要な課題は、北に位置する農村地帯から都市までを切り離す著しい緑の壁だ。そこで、市民にとって重要な病院を中心にそこから公園へ、メインエントランスとして南北に、次に公園から森林地帯、キャニオンへ東西に、素晴らしい緑を横切り、溪谷、採石場と都市までを繋ぎ、回遊性のある空間とした。景色の中には様々なアクティビティのための視点場を設け、訪れた人は楽しみながら、簡単に旅をすることができる。



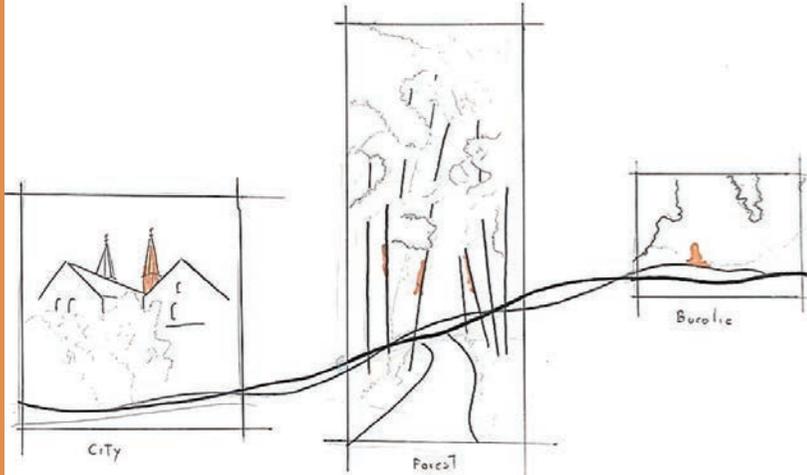
● HIGH DENSITY ● MEDIUM DENSITY ● LOW DENSITY ● ENTRANCE PARK



◆ FOCUS POINTS ● POINTS OF VIEW ● RESTING POINT ● HIKING ● BIKING



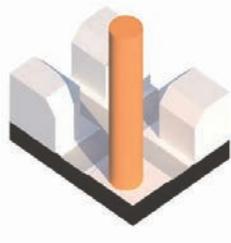
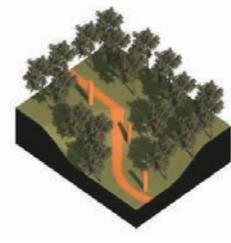
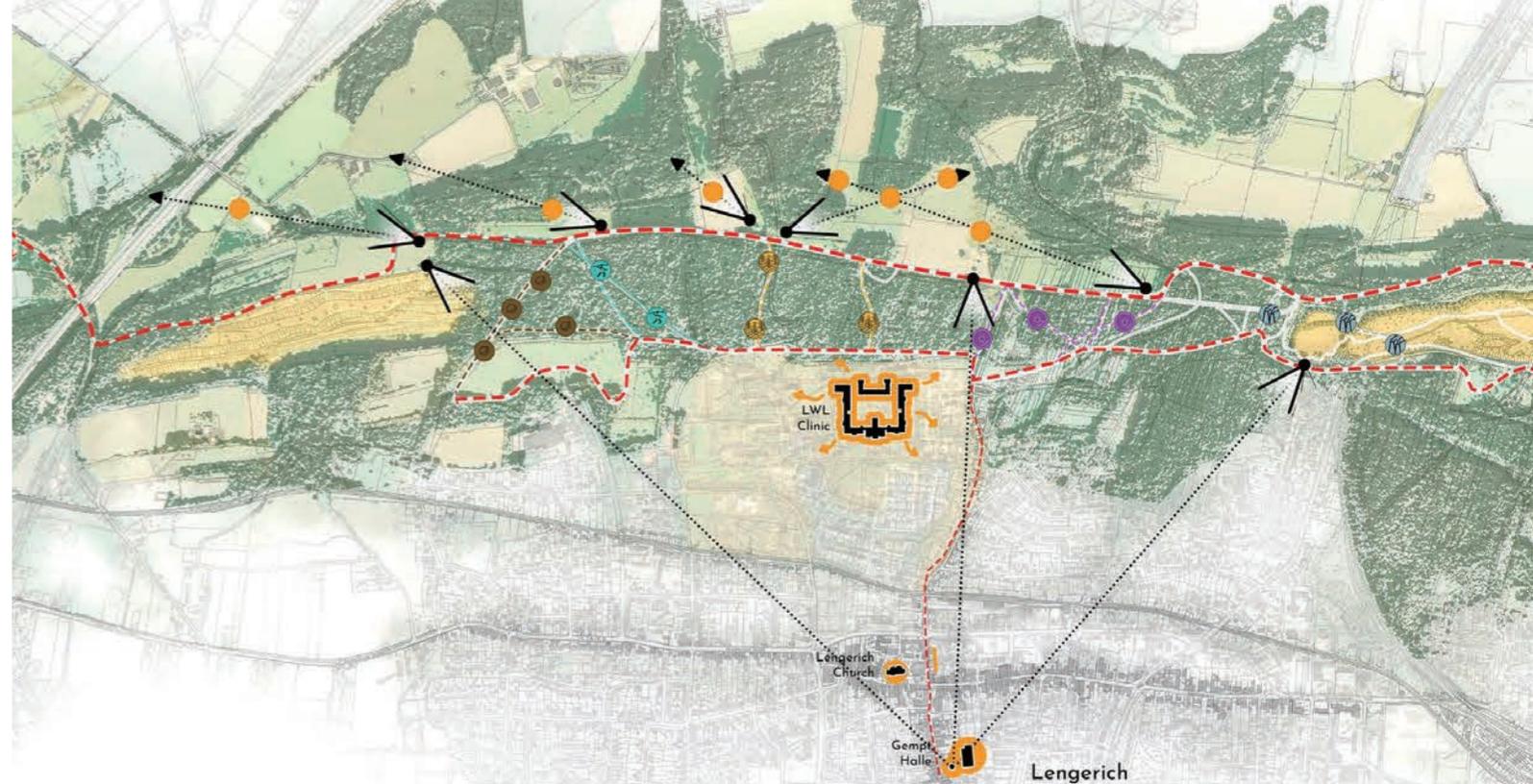
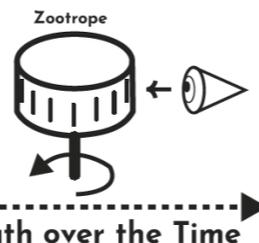
Paths over the time



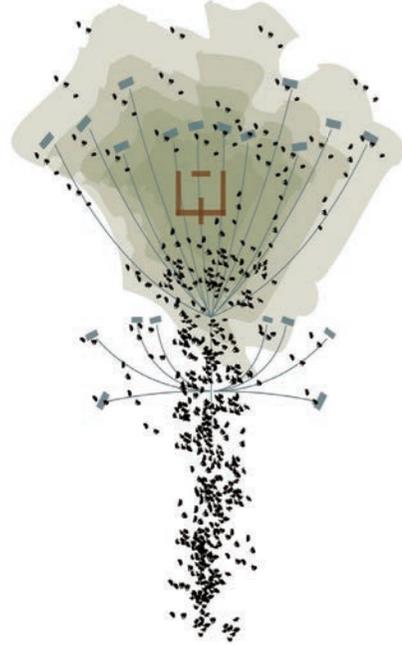
対象地周辺にはトイトブルガーの森という低山脈があり、自然保護区とジオパークの一部となっている。

このように豊かな自然資源はあるが、都市や公園とその周辺のランドスケープとの間に真の意味での繋がりが感じられなかった。街に関する物語（三疊紀、石器時代、農業、工業化、今日、そして未来）をトレイルにのせ、ランドアートや回転のぞき絵等の新しい体験を提案することで都市と公園の繋がりが生まれ、より質の高い生活をもたらされると考えた。

公園にそれぞれの物語に関連したランドアートを配置することで、展望台からの景観がより魅力的になる。そして全ての物語は街の中心に設置する回転のぞき絵によって結び付けられる。



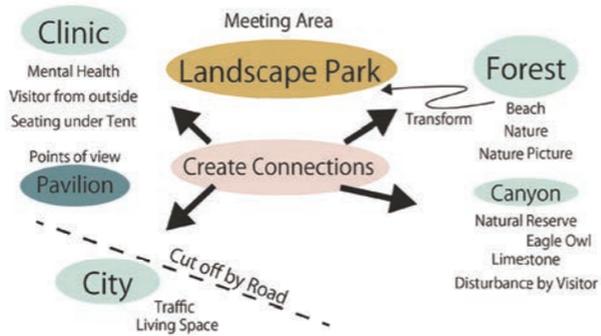
BLOOMING LENGERICH



メインアイデアとコース案は、地域に自生するワイルドキャロット (ハーブ) から着想を得た。

都市と森林部の間には、異なる景観特性がグラデーションのように広がっていた。花の形のようにそれぞれを結び付けることで、地域の魅力向上と人々を感覚的な体験へ導くことを目的とした。環境・社会・経済に対する取組や政策案を設定し、これらの側面から景観的要素に意味と目的を持たせること

で、全体的なシステムとして地域遺産に対する認識を高める。自然・文化・冒険の3コースを作成し、視点場に自然と歴史から着想を得た建物を設置することで、周囲の自然や地域との関わりを体験することができる。



BRAINSTORMING AND PROJECT PROCESS

Beech Forest



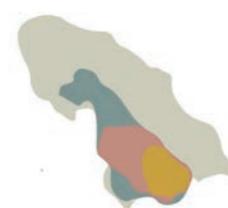
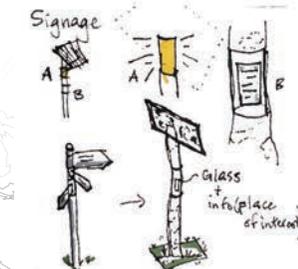
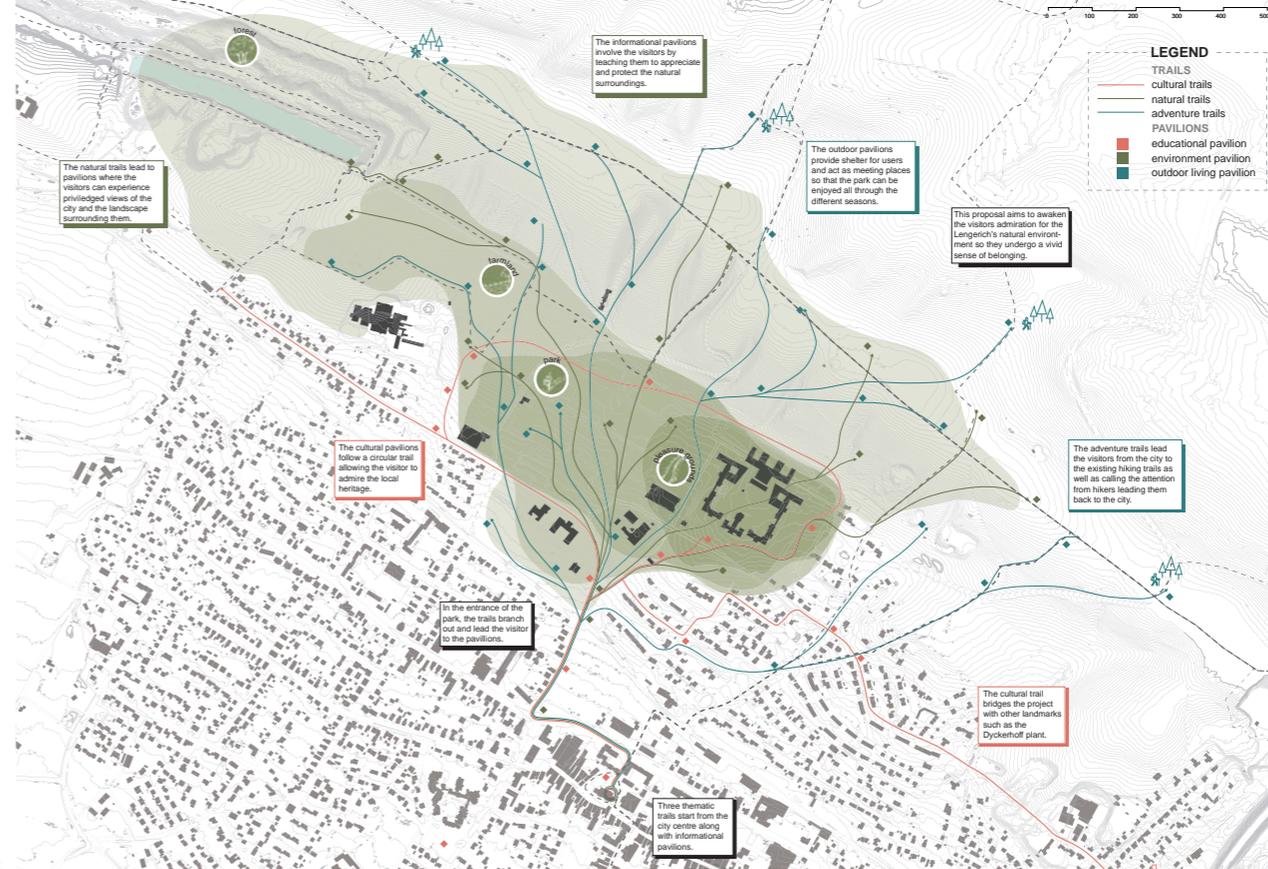
Calcareous Grassland



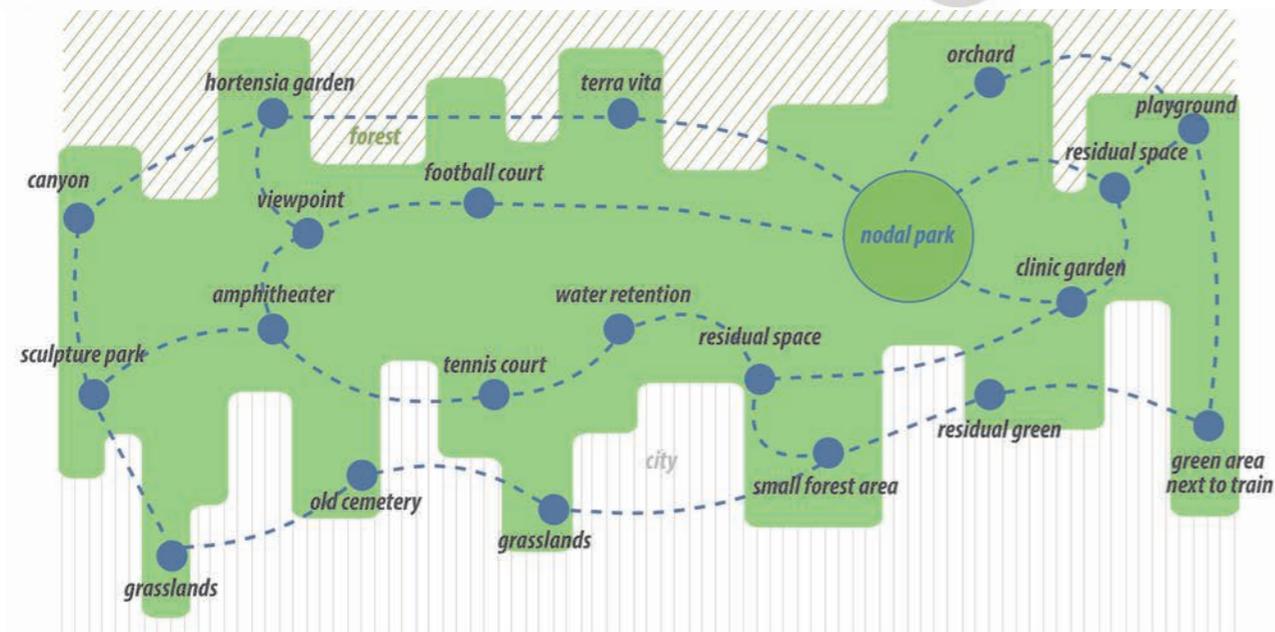
Farmland



Pleasure grounds



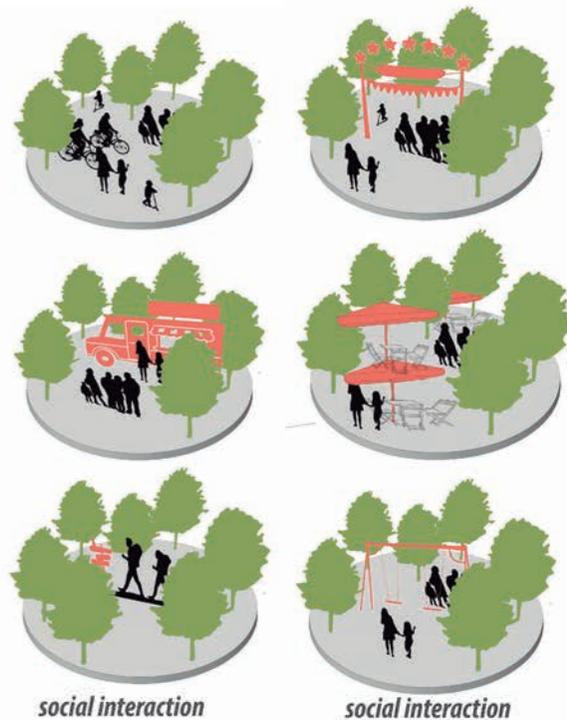
SOCIALLY ACTIVE NATURE



自然と市民を繋げる“グリーンフィンガー”の概念を提唱し、自然と都市の間にある既存の建物を起点として、周辺のアクティビティへと誘導する。自然資源とアクティビティが豊富な地域だが、日常的に感じられる空間は少ないと感じたことから、地域の自然植生を都市部の公園やストリートの植栽に取り入れ、嗅覚や触覚、視覚から地域の自然を再認識させる。建物は社会・自然・アクティビティの起点となり、市民が多目的な用途で活用できる空間をイメージした。

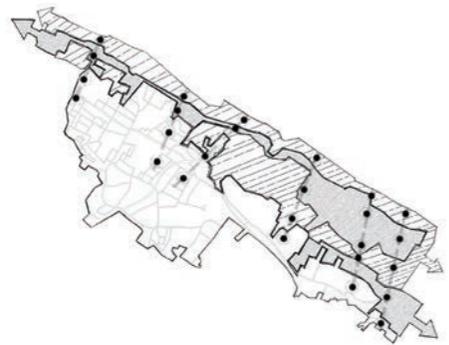
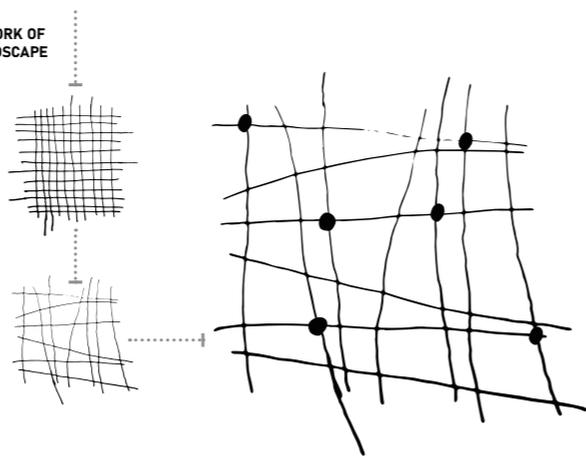


- buildings
- forest
- park
- nature paths
- active paths
- social paths
- ← main access
- ← secondary access
- ⊙ central park

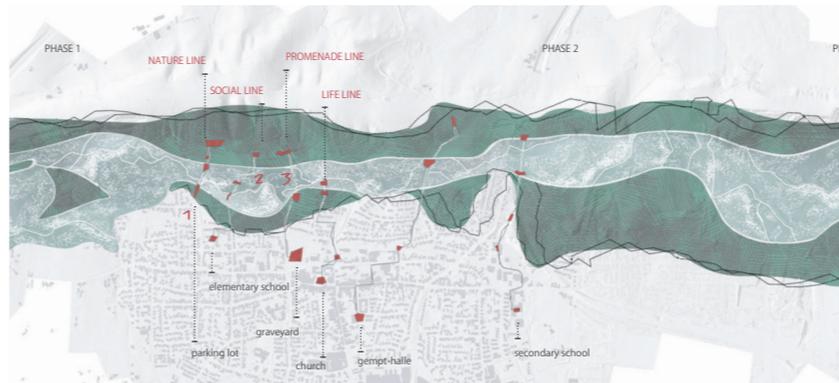


meshed LANDSCAPE

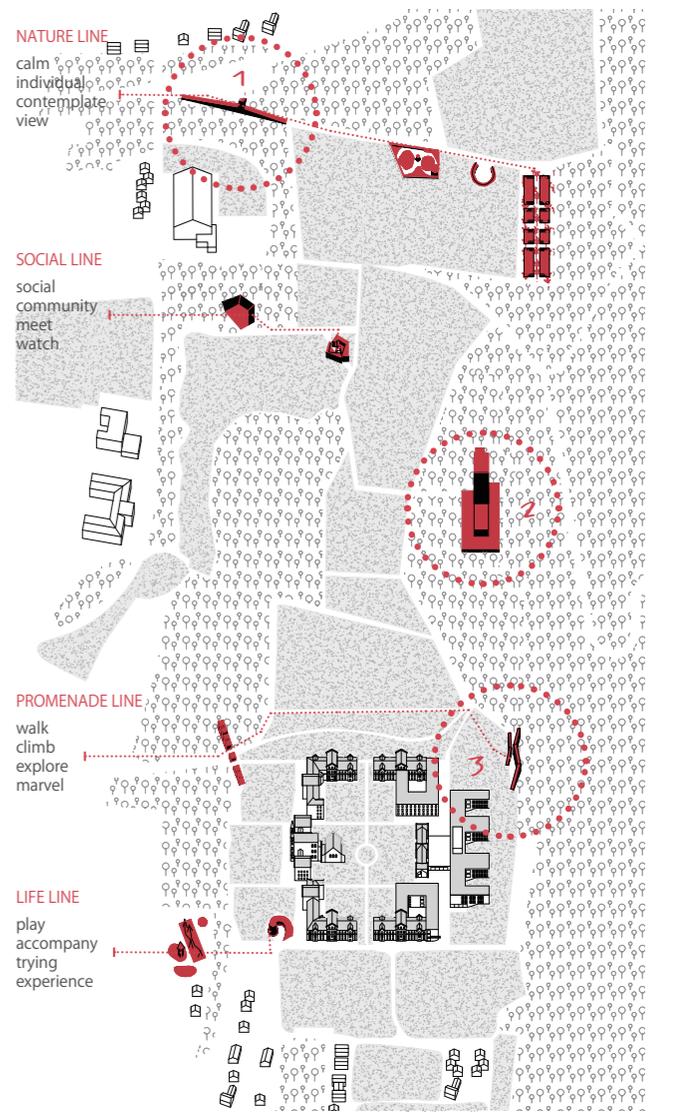
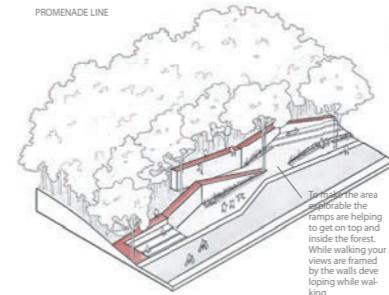
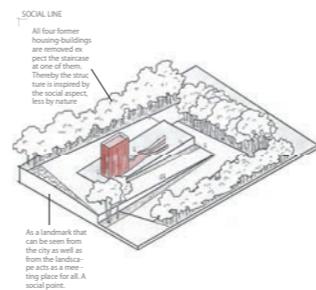
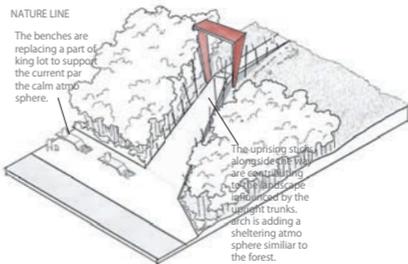
FRAMEWORK OF THE LANDSCAPE



Lengerich は東西方向に森林やまち並みが広がっている特徴がある。しかし南北にまちは発展していき、線形的な自然景観が失われつつある。東西の線形的な自然環境を用いて、まちの発展により分断されたレンゲリッヒを繋ぐメッシュランドスケープを提案する。教会や学校などの社会的・公共的な結節点とその結節点から伸びる南北の線形はそれぞれの囲まれた空間ごとに生命や自然、社会性を感じられる特徴的な体験を促す。



まちの麓にある現地調査により感じた潜在性のある敷地をまちから森林へ誘導するようにリデザインすることでレンゲリッヒにはこれまでにない多様で魅力的な線形がいくつも生まれはじめる。



NATURE LINE
calm
individual
contemplate
view

SOCIAL LINE
social
community
meet
watch

PROMENADE LINE
walk
climb
explore
marvel

LIFE LINE
play
accompany
trying
experience

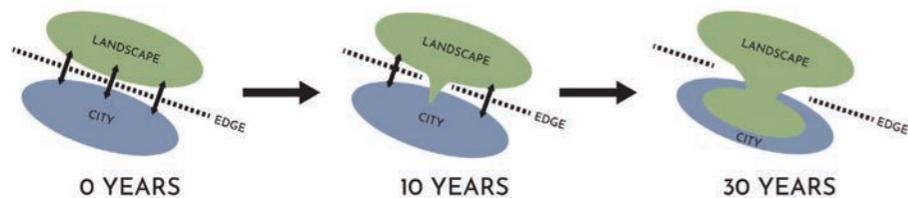
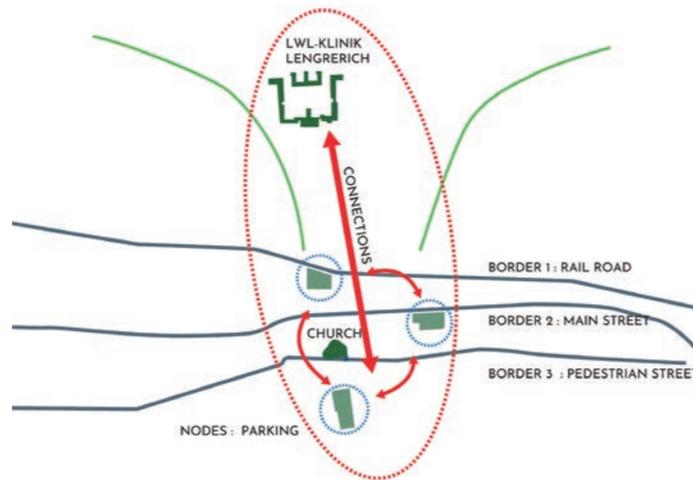
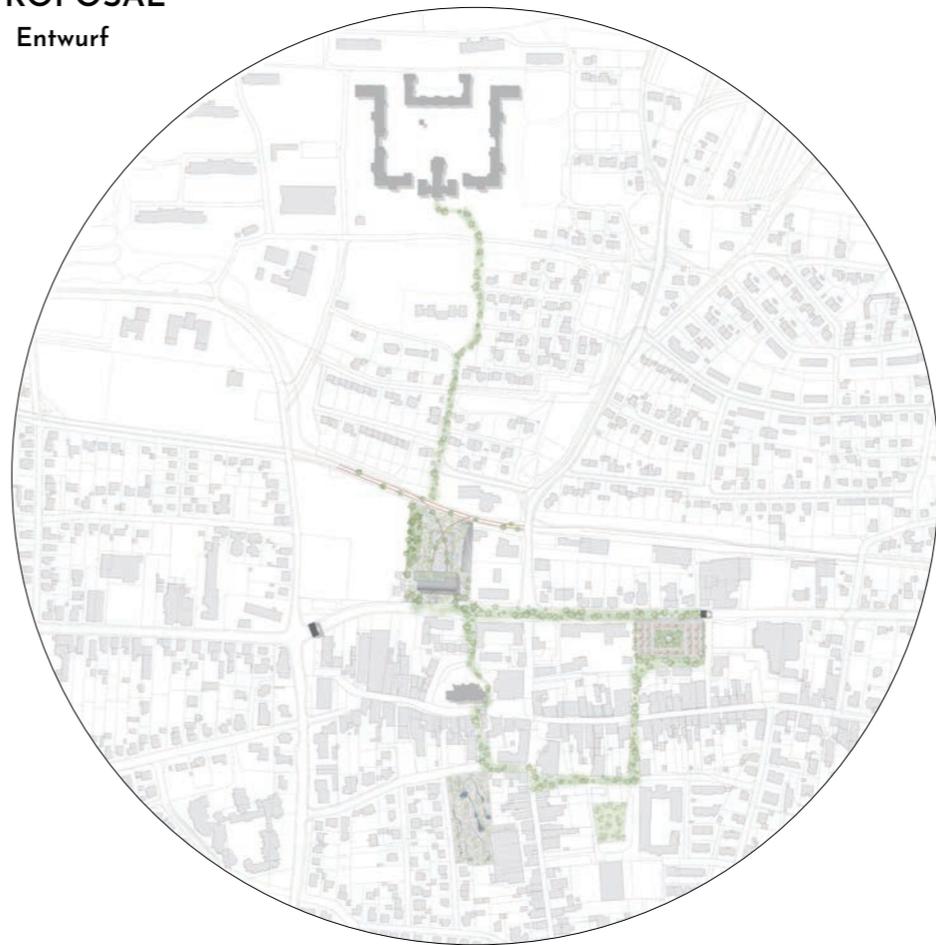
GATEWAY TO THE ORCHID



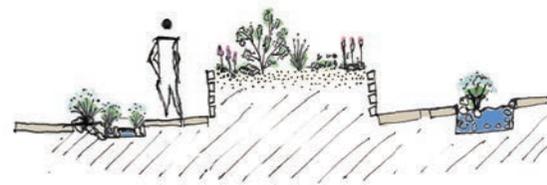
Lengerich の都市と自然の接続には道路や鉄道などのハードの境界線がある。それら解決するために都市内部に位置する3つの駐車場をノードとして、駐車場としての機能から公園や植物園などに転換し、自然を都市内部に引き込むこと提案とした。それぞれの駐車場は異なる機能を持つ空間となる。

- ①旧消防署を統合した広場。可動式のエレメントが人々の参加を促し、広い内部空間ではシネマショーやコンサートなどのイベントが行われる。
 - ②マーケットプレイスとしての機能を強化する。そして遊び場、憩いの場として人々が滞留する空間整備する。
 - ③オーキッド・パークとして、対象地域の花であるランを用いたラン園となる。現時点では自然界に存在する要素を都市に引き込むことを目的としている。
- これらを起点に、最終的には都市と自然が繋がり、歩行者にもやさしい街へと転換していこう。

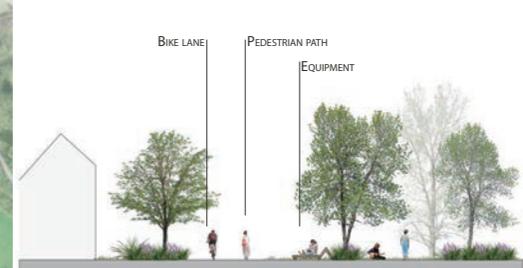
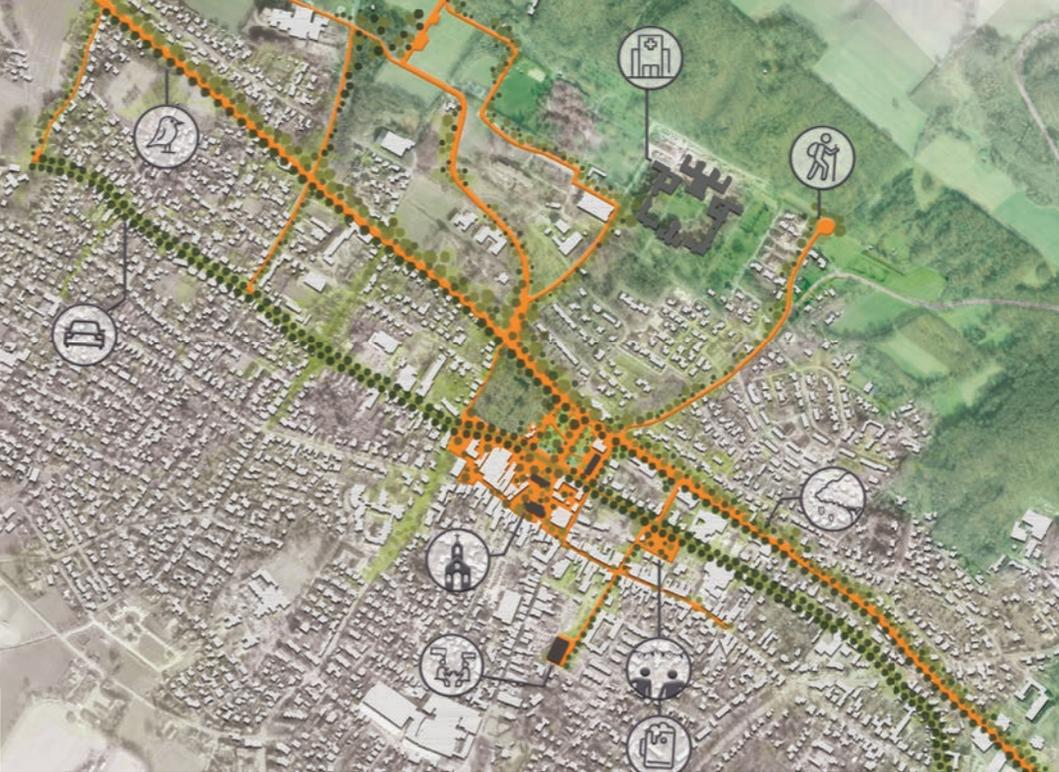
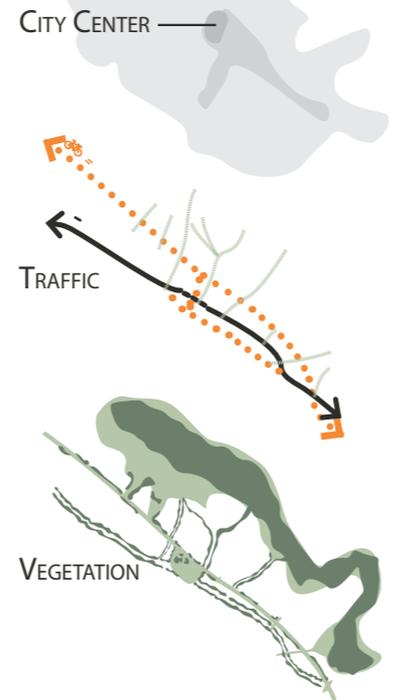
PROPOSAL Entwurf



ORCHID GARDEN Orchideen Garten

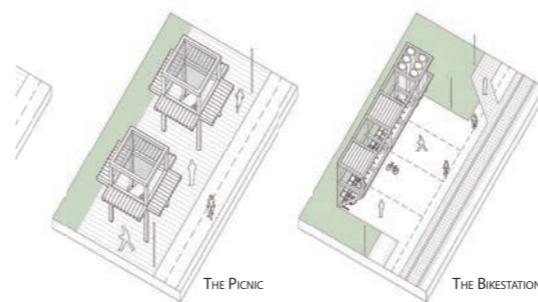


LIFELINES OF LENGERICH



3つのラインを中心に人と自然をコネクトする対象地では教会を中心に町が形成され、車、廃線の軸線が横断しており、公園（森）とのつながりを分断している。今後、モビリティの変化、スロークラススタイルからより人のアクティビティが広がる事が重要だと考えた。

そこで車道、廃線を歩行空間、緑のコリドー、サイクリングロードに変化することにより、町から公園（森）を繋げるだけでなく、隣町までつながる広域ネットワークとなる。



DOWN THE MEMORY LINE



記憶は想像力への開かれた扉である

街と既存の自然との間に「記憶」「感覚」「想像」のキーワードに基づいて、つながりをつくるのがテーマ。

現在、街と自然を分断している廃線跡は、鉱業の発展に伴い、街と自然との関係を歴史的に変化させてきた鉄道の跡であることから、線状の公園を本計画の軸とした。

利用者が自分の記憶やイメージをつくることのできるような、物理的・感覚的な体験を通して、街と自然をつなぐインタラクティブな場を用意した。

空間的な要素を活用して、自然と街をつなぐと同時に、人々の記憶と空間をつなげていきたい。





Connecting into Landscape

Linking the high frequented hiking trails along the Teutoburger Wald which is the main part of the UNESCO TERRA.vita park with the parkarea around the LWL Klinik.



From Landscape to Park

Designing a concept for a the parkarea around the LWL Klinik and a new part of the park that connects existing elements.



From City to Landscape

Connecting the City with the parkarea through green corridors, stepstones, features, etc.

Tutor : Malte Schünemann 

Group1

Yumiko Kanazawa
Florenca Castagneto
Carmen Carral Pérez
Dana Garcia
Michelle Guzman
Steffen Horns
Ramon Lenz

Group3

 **Marta Garcia Carbonero**
 Clara Pedalino
 Martina Ayelen Chacon
 Cheryyah Wilmot
 Matilde Aldao
 Christian Lepper
 Tobias Schlottbohm
Koyama Takuro

Group5

 **Takanori Fukuoka**
 Gabriela Bautista
 Clara Dillon
 Emily Höhn
 Tanaka Susumu
 Ignacio García Camacho
 Mathis Hurst
 Sascha Nolte

Group7

 **Dirk Junker**
 Vivian Rodriguez
 Sophia Overkamp
 Annika Buchholz
 Debora Tsunuun
 María Agustina Pérez
 Fukuda Rion
 Ignacio Ruiz del Portal

Group2

Damián Pérez
Caroline von Bergen
Kimura Hinako
Julia Prokop
Gonza Correa
Florian Eckhardt
Julio García García

Group4

 **Astrid Zimmermann**
 Frauke Weerts
 Carrie Mendoza
 Paloma Morales
 Yang Chia Ning
 Sol Spadoni Grillo
 Philipp Thiele

Group6

 **Lia Dikigoropoulou**
 Helena Cuvillo
 Henrike Hesping
 Mercedes Ciccale Smit
 Mariana Strasser
 Farzana Ramnath
 Julian Essig
Tachikawa Ryuki

Group8

 **Juan-Carlos Rojas-Arias**
 Guadalupe Etcheverry
 Belén Álvarez García
 Erickson R Diaz
 Christoph Lingstädt
 Fabian Wichert
 Saito Tsubasa


オスナブリュック応用科学大学主催

国際ランドスケープデザインワークショップ 2022

参加者：木村 日向子

小山 拓朗

齊藤 翼

田中 晋

舘川 龍希

福田 理恩

楊 家寧 (東京農業大学 大学院 地域環境科学研究科 造園学専攻)

引率・担当教員：金澤 弓子 福岡 孝則

編集：小山 拓朗 舘川 龍希

提案内容ページの QR コード：各グループのポスターとスライド
このページの QR コード：ワークショップの動画

